



音楽学部の構内にある、赤レンガ2号館。関東大震災にも耐え、現在は大学院美術研究科の研究施設として使用されている。

日本唯一の国立総合芸術大学である同様の歴史は明治まで遡る。前身である東京美術学校と東京音楽学校は1887（明治20）年の創立。この二校を包括する形で、東京藝術大学は1949（昭和24）年に創設された。その後幾度かにわたって学部の拡充改組がおこなわれ、現在は美術学部（絵画科・彫刻科・工芸科・デザイン科・

建築科・先端芸術表現科・芸術学科）と音楽学部（作曲科、声楽科、器楽科、指揮科、邦楽科、楽理科、音楽環境創造科）を合わせ2学部14学科で構成されている。この多岐にわたる学科の増設に伴い、教育施設も拡張を続けてきた。

東京藝術大学のキャンパスは、上野、茨城県取手市、神奈川県横浜市、足立区千住の4ヶ所にあるが、学科や施設の大部分は上野に集中している。この記事のための取材日にも、卒業・修了作品展の展示準備をするために集まった学生たちの姿が多くみられた。上野キャンパスは通りを挟み北側が音楽学部、南側が美術学部の敷地となっており、附属図書館、大学美術館、社会連携センター等の施設を有する。また、ギャラリーションオブ「藝大アートプラザ」（48頁で紹介）が2018年にリニューアルオープンした。芸術鑑賞の機会が少ない人でも気軽にアートに触れ、日常的に作品を購入できる環境を整えている。

取手キャンパスでは、美術学部2年以上の先端芸術表現科と大学院の一部（壁画・ガラス・グロバーバルアートプラクティス）、横浜キャンパスでは大学院映像研究科、千住キャンパスでは音楽学部音楽環境創造科と、大学院国際芸術創造研究科の学生たちが学んでいる。



日本唯一の国立総合芸術大学

上 野恩賜公園周辺には、東京国立博物館をはじめ、国立科学博物館、国立西洋美術館、東京文化会館、上野の森美術館、東京都美術館等が立ち並び、東京一の文化エリアと言えるだろう。その北西に佇んでいるのが、東京藝術大学（藝大）の正門（写真上）。およそ100年もの間、学生を見守り続けてきたこの門は2019年に耐震工事を終え、昔の姿を留めつつ再生された。

「狭き門」といわれる藝大への入学。今年も3月13日に合格者発表を終え、新たにその門をくぐった者がいる。2019年7月発行の大学概要によると、2019年度は美術学部の入学定員234名に対し2824名の志願者があり、倍率は約12倍。非常に競争率の高い藝大だが、困難を乗り越えて入学する意義は大きい。今回の「徹底研究・ニッポンの美大」では、そんな東京藝術大学の美術学部を中心に紹介しよう。